
ニガーマウンテン

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ニガーマウンテン

【Nコード】

N3547BA

【作者名】

山野つつじ

【あらすじ】

アメリカ南部の田舎町、ここには有色人種は一人も居ない。そんな町で子ども達が歌う唄。
一体この町で何があったというのだろうか？

町の子どもが歌う唄（前書き）

ニガーという言葉は特定の人種に対しての差別・侮蔑の言葉になります。

しかし作者の住む町からほど遠くない場所には人々にそう呼ばれる山が現存しています。このお話はその山の名前からイメージを膨らませて作っています。特定の人種への差別や侮蔑を意図していないことを御了承頂きたく思います。

町の子どもが歌う唄

ニガーマウンテン ニガーマウンテン
白人は行っちゃいけないよ
ニガーマウンテン ニガーマウンテン
行ったら両手をもがれるよ

遠くでピアノが聞こえたら
急いで家に帰るんだ
秘密の箱は開けるなよ
あの子がきつとやってくる
それを返せとやってくる

ニガーマウンテン ニガーマウンテン
山に登っちゃいけないよ
ニガーマウンテン ニガーマウンテン
行ったら両手をもがれるよ

あの日の秘密はみんなの秘密
人に話しちゃいけないよ
みんなで口を閉ざすんだ
あの子がいつも探してる
それを返せとやってくる

僕の住むアメリカ南部の小さな町の側に、ニガーマウンテンとい
う山がある。

山と言っても、大きな丘ぐらいの大きさだ。
今は汚い言葉や人種差別的な言葉は、学校でも禁止になっている。
それなのに、なんであの山はニガーマウンテンという名前なんだ

ろう。

どうしてあの山がそう呼ばれるのかを大人にたちに聞いても誰もちゃんと訳を話そうとはしない。

そういう大人たちの様子が、僕ら子どもたちの想像を更に掻き立てる。

何か忌まわしい出来事があったんじゃないかって、子どもたちはみんなそう思っている。

どんなことが過去にあったのか子どもたちは誰も知らないけれど、みんな同じようにニガーマウンテンの歌をうたってる。

あの山に行っちゃいけないよ、って。

この町にある あの山

僕の名前はジム。

アメリカ南部の州の小さな田舎町に住んでいる。

おじいちゃんが二十代の頃にバージニアでおばあちゃんと結婚して、教師としてここに移り住んだことが始まりで、僕ら家族はこの町に根付いている。

お父さんはここで生まれ、ここに住んでいたお母さんと結婚した。僕ら三世代の家族は幸せに暮らしていたんだ。

だけど、昨年おばあちゃんが死んで、続いてお父さんとお母さんが離婚して、今はおじいちゃんとお父さんと僕がこの町で一緒に暮らしているんだ。

お母さんがいないのは寂しいけれど、それでも家族みんな協力しあって仲良く暮らしている。

何よりも嬉しいのは、大好きなおじいちゃんが、仕事で忙しいお父さんに代わってなるべく僕との時間を作ってくれることだった。

学校が終わって家に帰ると、おじいちゃんはいつも畑仕事やら牛の世話をしている。そして、僕を呼んでは一緒に作業をしながら、今日の学校での出来事やら昔話を二人で楽しむんだ。

僕の知らない昔の出来事や僕が行ったことがないような場所の話しをたくさんしてくれる。

それは僕の好きな時間の一つなんだ。

以前、おじいちゃんに「なんでみんながあこの山のことをみんながニガーマウンテンと呼ぶの?」と聞いたことがあったんだ。おじいちゃんは、「うーん、まあ悲しい出来事があったからなあ…」といったまま口を閉ざしてしまった。お父さんにしても同じで、適当な返事をして決して「あの山」についての問いに答える大人はこの町には誰一人いない。

誰もが口にしない過去が、僕の興味を大きく膨らませていくだけだった。

そもそも、なんであの山の名前の由来が気になったかというところ、学校で僕をいじめめる子どもたちが意地悪なことを言うからなんだ。先生がいらないランチの時間になると、言いがかりをつけて何かと嫌がらせをしてくるいじめっ子がいる。彼らは、僕の洋服の襟足を掴んで、「弱虫ジムをニガーマウンテンの天辺にある木に縛り付けてやる」とみんなの前でからかうんだ。

僕がいかに弱い存在であるかをみんなに見せ付けているだけなんだ。

その証拠に、彼らが僕を小突いたり、ランチのプレートをひっくり返したりはするけれど、本当に僕をニガーマウンテンに連れて行ったり、天辺にある木に縛り付けたりなんてことはしないのだからニガーマウンテンに行く子どもなんて誰もいやしない。

子どもが口にする唄でさえ、行こうと思う気持ちなんか留まらせてしまう。

この町に住む人々はこの山の何かを恐れている。

強気に見えるいじめっ子たちでさえもあの山にいかないのは、何かを怖がってるからなんだと僕は思っている。

「あの山には白人は行ってはいけない」って歌はいうんだけど、僕の住む町では有色人種はおるか、黒人なんて見たことない。

おじいちゃんが前に、「この町に住んでいた黒人は、ちょうどお父さんと同じ世代の子どもとその両親の一家族が最後だ」って言うてた。

唄の中で「白人は行ってはいけない」って言うけれど、この町には白人しかいないのだから、「誰一人あの山には行くな」ということを唄は意味しているんだろう。

いじめっ子たちは僕にしつこく言うものだから、いつかあの山の天辺に本当に木があるのかを確かめてみようと思っていた。

唄の秘密を確かめられたら、僕はいじめっ子たちよりも強くなれ

るような気がしていたんだ。

それに好奇心は、僕の成長と共にがどんどん大きく膨らんでいて、行動を起こす日を待つばかりになっていたんだ。

そう、僕はフィフスグレイド（日本でいう小学校五年生）なんだから、もうあの山に一人で行く体力さえも十分にもっているのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3547ba/>

ニガーマウンテン

2012年1月9日05時53分発行